

【ALT 英語教室】

1. 目的と経緯

市内小中学校 11 校の外国語指導助手(ALT)を市立保育園にも派遣し、幼児の外国語や外国語の文化への興味関心を高めたいという趣旨のもと『園児に外国語に慣れ親しんでほしい』『小さい頃から外国の言語や文化や触れてほしい』という思いから、ALTの先生方に訪問してもらう。

2. 内容

《夏と冬の2回実施》

- ・英語であいさつや日常会話「I m h a p p y ・ h u n g r y ・ s l e e p y」など、ジェスチャーも交えながら英語の言葉に触れる。
- ・ALTの先生と1対1で英語でのやり取りを楽しむ。
- ・クリスマスに関連した絵をみながら、英単語を知る。
- ・英語を使った伝言ゲームを楽しむ。



3. 成果と課題

- ・英語がわからないながらも、ALTの先生の表情を汲み取ったり、言葉のやり取りを繰り返すことで、英語のおもしろさを知り興味をもつことができた。楽しいゲームや歌など取り入れながら進めていただいたことで、子どもたちはより外国語へ親しみを持つようになった。
- ・参加後は、英語を口ずさんだり「小学校へ行ったら英語を頑張りたい」という声も聞かれ、就学をひかえる年長児にとっては、小学校への期待が高まり良い経験となった。
- ・今後も継続して行っていただき、外国の文化や言語に親しんでいきたい。

《地域連携・地域交流は日々の生活の中に》

～元気ステーション「あるっさ」との交流～

1.目的

元気ステーション「あるっさ」は保育園から徒歩5分ほどの場所にある高齢者施設。設立してすぐに散歩時のあいさつや声を掛け合うことがきっかけで交流が始まり、今ではお散歩コースとして日常の中で交流を続けている。様々な世代の人とのかかわりが減ってきている現在、家庭や保育園だけでは得られない様々な知識や経験をして高齢者との交流を楽しむ。

2.内容

「こんにちは」「おねがいします」などの挨拶をし、子どもたちの好きな体操をみせたりラジオ体操と一緒にして体を動かす。また、シャボン玉などであそぶ中で声を掛け合いかわりを持つ。



3.成果と課題

施設の利用者の方々は子どもたちの姿が見えると、すぐにテラスに出て笑顔で迎えてくれた。未満児クラスの子もたちは自分たちのあそび場に到着したかのように自由にあそび始める姿があり、安心できる環境となっている。以上児クラスの子もたちとの交流は少ないので、今後は少しずつお屋さんごっこなどの園の行事に参加してもらい交流する機会を作っていきたい。

～おじいちゃんとの畑づくり交流～

1.目的

食への興味・関心を高め、感謝の気持ちを持って食習慣の基礎を築くために年長児が畑やプランターで毎年野菜を育てている。今年度は年長児の祖父に畑づくりについて相談したところ、子どもたちに教えたり一緒に野菜を育てたりしていただけることになり、交流が始まった。野菜を育てるうえで大切な事を聞きながら、おじいちゃんとかかわりを楽しむ。

2.内容

「おねがいします」「ありがとうございました」などの挨拶を大切にしながら進める。その後種や苗の植え方やポイントを教えてもらい、実際に土に植える経験をする。一緒に水やりや草取りをしながら生長を見守っていく。また一緒に収穫をし、子どもたちの素直な反応や言葉を直接知らせていく。



3.成果と課題

はじめは保育士からの相談だったが畑づくりが始まると、子どもたちは野菜などを大切にする気持ちが育ただけでなく、子どもからおじいちゃんに積極的に声を掛ける様子が見られるようになった。話の内容も畑の事だけでなく、自分の事を伝えたりとかかわりの深まりを感じ、保育園で保育士や友だち以外の話ができる大人ができたことはよかったと思う。これから就学し、登下校などの際に地域の人に挨拶したり、時には困っている時に助けてもらったりできるような安心へとつながってほしい。

起震車・煙体験

1. 目的と経緯

本園では毎月火災や地震、不審者、野獣など様々な状況での避難訓練を実施しています。訓練の一環として、今年度は起震車に来ていただき、地震体験に加えて煙体験をさせてもらう事ができました。

2. 内容

- ・ 山梨県防災安全センターの方に来ていただき、地震が起きた時にどう身を守るか、火災が起きた時はどう逃げるかというお話の後、地震・煙体験を行いました。
- ・ 年齢ごとに震度を変えてもらったり、保育室をひと部屋使って、煙で視界の悪い中を姿勢を低くし、口元を手で塞いで歩いてみました。



3. 成果と課題

- ・ 市のお祭りで経験したことがある子もいましたが、初めての子がほとんどでしたので、いつもの避難訓練では起きない揺れに様々な反応が見られました。
- ・ 煙体験では、視界の悪い中をどう歩くかを学びました。3歳未満児も落ち着いて参加できました。
- ・ 全年齢が体験できて良かったです。いつ起こるか分からない災害への大切さを知る機会となりました。今後も命を守るための訓練を行い、安全に園生活を送れるようにしていきたいと思ひます。

ポプラの木介護センターとの交流

1. 目的と経緯

地域交流の一環で、近隣にある「ポプラの木介護センター」と交流を行っている。園から出向き、利用者の方と顔を合わせたり、会話を楽しみ交流を深めている。コロナウイルス感染症の感染拡大により交流が出来ない年が続いたが、再開し少しずつ回を重ねている。

2. 内容

子どもたちの元気な声が聞こえると、利用者の方々が顔を見せてくれます。「何才なの？」と聞かれ、指で“2”を示すと「おばあちゃんと100才がうね」とスタッフの方が教えて下さるなど、ほっこりするやり取りを楽しんでいます。「バイバーイ」「こんにちは」と声をかけてもらい、とても嬉しそうな子どもたちです。



3. 成果と課題

地域との繋がりが少なくなっている中で気軽に交流できる施設が近くにあることは、とても貴重でありがたいことだと感じている。挨拶や何気ない会話、年齢を超えた繋がりから、少しでも多くのことを感じ、地域から見守られる温かさを知る機会になればと思う。また、この交流が利用者の生きがいや健康増進になってくれたらとの願いもある。

第七保育園の地域連携・地域交流

富士吉田市立第七保育園

～地域に根ざした保育園をめざして～ 子育てひろばの充実

1、目的と経緯

・保育園を「子どもをはぐくむ場」「子育てを支援する場」「地域とともに はぐくむ場」としてとらえ、様々なニーズに応えていけるよう取り組みを計画してきました。
・昨年度に引き続き月に2回実施しながら地域の未就園児とともに楽しい時間を過ごしています。

2、内容

・12月の食育活動に子育てひろばの方にも参加していただきました。
実際のもちつきの様子を見ていただいたり、もちつきの疑似体験をしました。
蒸かしたてのもち米やつきたてのお餅にも触ってもらいました。



3、成果と課題

昨年度から開催している子育てひろばも地域の方々に周知され、参加して下さる親子も増えてきたことをとてもうれしく感じます。また、親子で作った製作を笑顔で持ち帰ってくれる姿を見ると準備してよかったなど改めて思えます。

今後も保育園の雰囲気の間近で感じていただきながら、入園時には「第七保育園に行きたい！」と選んでいただけるように様々な工夫を行ないながら、楽しい時間を一緒に過ごしていけたらと思います。

本園の地域連携・地域交流

富士吉田市 幼保連携型認定こども園 富士保育園

上宿いきいきサロン訪問～お年寄りとの交流～

令和7年12月11日（木） 場所 上宿会館

1・目的と経緯

当園がある上宿地区お年寄りの心と体の健康維持と児童とのふれあいを目的として平成13年より社会福祉協議会上宿支部との連携活動として実施してきた。

こどもたちのお年寄りをいたわる思いやりの心の醸成を目的とするとともに、園児の日頃の活動の成果を地域に還元するという地域支援も兼ねて実施。

2・内容

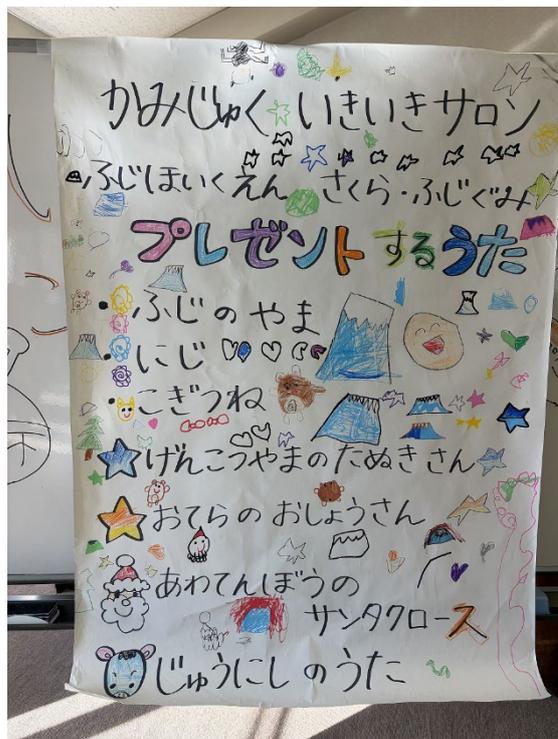
上宿地区にお住まいのお年寄りとの交流会。

(1) うたのプレゼント

園児たちがお年寄りに歌をプレゼント。

(2) 手遊び交流

手遊びをお年寄りと一緒にやる



3・成果と課題

児童にとっては日常祖父母等との交流機会はあるもののそれぞれのコミュニティにおける地域住民（特に高齢者）との交流の場の減少傾向にある昨今において、とても有意義な経験の場となった。

一方、課題としては交流が単発に終わらないためにもこの活動を子どもたちの心に意識づけして日常を生活を送ったり（お年寄りのための歌や手遊び活動）、同地区の文化祭等へも園児が作品を提供、

参加するなど深まりもたせていければよいと考える。

日常保育の中で英語に親しむ

～グローバルウイング事業～

☆ (外国人指導員による英語教育)

★外国人指導員、都留市教育委員会、小学校との連携事業

1. 目的と経緯

- ・幼児期から遊びや生活の中で自然に英語に触れ、英語に慣れ親しむことで小学校から始まる英語教育へのスムーズな接続と英語力（話せる・使える）の向上を図ることを目的とする。
- ・令和6年9月から市教育委員会と連携し試験的に当保育所において実施。令和7年10月からはグローバルウイング事業として市内の保育所・認定こども園等においても実施している。



2. 内容

- ・教育委員会より外国人指導員が保育所へ派遣され、子どもたちと一緒に日常生活を過ごす中で、自然に英語に触れることができる環境を創設している。
- ・歌や絵本、リトミックなどを通じて英語に楽しく親しむことができる活動を取り入れている。
- ・保育所へ派遣されている外国人指導員が週に1回、地域の小学校へ出向き、3年生から始まる「外国語活動」に準じた活動を1・2年生で行っている。

3. 成果と課題

- ・外国人指導員が保育所に常駐したことによって、子どもたちにとって英語が身近なものとなっている。
- ・あいさつや曜日、天気などの言葉を英語で聞いて発音することが日常的になった。
- ・子どもたちは英語に興味を持ち、積極的に外国人指導員に質問するなど、楽しんで学ぼうとする姿が見られている。
- ・子どもたちの英語力の向上やグローバルな視点からの活動の成果を実感できるよう今後は様々なアイデアを取り入れた活動を展開し、長期的にこのプログラムに取り組んでいくことが必要である。地域や家庭とも連携しながら子どもたちの成長や英語力における向上を支援していきたい。



東桂保育園の地域連携・地域交流
社会福祉法人ふれあいの森東桂保育園

都留文科大学環境教育実習指導者養成講座(森のようちえん)
＜大学生と年長児と共に自然の中で活動する＞



1. 目的と経緯

15年前から始まった都留文科大学教養学部地域社学科環境教育実習指導者養成講座(森のようちえん)に年長児が参加して、大学生と一緒に自然体験活動を楽しんでいます。

2. 内容

鹿留ふれあいの森や、楽山、ソローの小屋などの自然の中、子どもたちは大学生と共に活動します。何をするのか、決められたプログラムはありませんその季節、その時の自然に興味を惹かれた子ども達の遊びたい、心を動かされたことに大学生がそれを捉え、寄り添う中、活動が広がっていきます。木登りや斜面の滑り降りも大好きで繰り返し挑戦する姿もありました。どんぐり松ぼっくり、きのこ、虫、蛇等自然物さがし、冬には雪だるまづくり、雪合戦、まき割りをしてから、たき火、冬の寒い日の炎は暖かく心も身体も癒されました。



3. 成長と課題

自然体験を通して、子どもたちは五感を使いながら主体的に自然と関わり、好奇心探求心の育ちや意欲的に活動する姿がみられ、特に気持ちを表わせない、大人しい子ども達も解放感を感じ、自然の中ではあるがままの自分をそのまま受け入れてもらえる体験ができました。気持ちの安定、友だち、大学生との発見共有、協力、思いやりや協働性の育ちにも繋がっていききました。大学生との活動の中、もちろん安全性は確保した上で、活動を制限せずに子どもの気持ちに寄り添い、子どもと向き合う姿は指導者を目指した学びとなり、お互い有意義な活動になっています。

しかしながら、今年度で講座が終了となり本当に残念ですが今後は自園でこの体験を生かしながら、活動を続けていきたいと思えます。都留文科大学の高田先生、秦先生、学生の皆さん、たくさんの楽しい体験、たくさんの感動をありがとうございました。

地域連携・地域交流

《保育所と近隣小学校との交流》

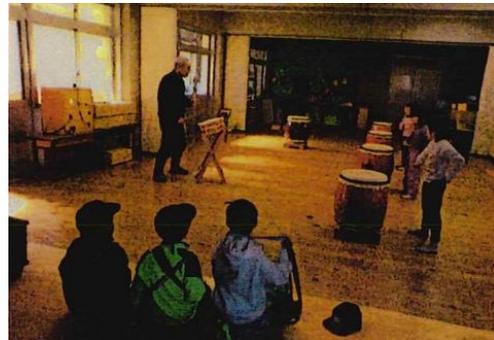
三吉保育園

1. 目的と経緯

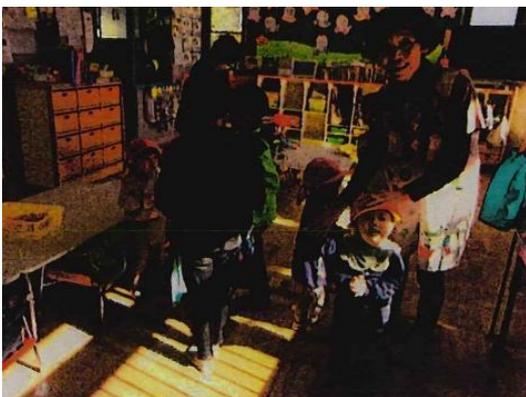
発表会や運動会等の保育園の行事の時は、保護者を通じて地域の方々も参加し交流を深めています。その一環で隣接する谷村第二小学校との交流は、卒園児のほとんどが入学するため、他の団体より多くの交流があります。歳に近いお兄さんお姉さんとの交流は、就学への希望と期待を抱く良い機会でもあり、何年も前から数多く行っております。

2. 内容

今回は二年生の数名が「校区探検」授業として、一つのグループが当保育園に赴き、保育を見学したり参加したりして、交流を行いました。年長児は和太鼓の練習を見てもらい、年中児はお制作を見学、年少児は粘土遊びを見てもらいました。三歳未満児は外遊びを一緒に行い楽しんでいたようです。



3. 成果と課題



後日いただいたお礼の手紙にも「太鼓の音がすごかった」とか「赤ちゃんが可愛かった」など感激した様子が伺え、連携の効果を感じました。

～みんなで育ててみんなで味わう食育体験～

1 目的と経緯

子どもたちが「食」への関心を深め、地域の人々とのつながりを実感できる機会をつくることを目的に、年間を通して食育活動と地域交流を進めています。

今年度は、年長組によるお買い物体験と野菜づくり、以上児による芋ほり体験を中心に、保護者や地域の協力を得ながら活動を展開しました。

食材が育つ過程を知ること、地域の人々と関わること、仲間と協力して取り組む経験を積むことをねらいとして実施しました。

2 内容

● 年長組の野菜づくり

春、子どもたちは園芸店を訪れ、自分たちでトマトときゅうりの苗を選んで購入しました。

苗植え、水やり、観察などの世話は子どもたちが主体となって行い、日々の成長を楽しみにしながら育てました。夏には立派に実った野菜を収穫し、サンドイッチづくりに挑戦。

自分たちで育てた食材を味わう喜びを体験しました。



● 以上児の芋ほり体験

秋には、保護者のご厚意で畑をお借りし、さつまいもの収穫を行いました。

土の感触を楽しみながら、友だちと協力して大きな芋を掘り出す姿が見られました。

収穫したさつまいもは園に持ち帰り、後日「焼きいも会」を開催。

自分たちで掘った芋のおいしさを味わい、地域の恵みへの感謝を深めました。



3 成果と課題

自分たちで育てた野菜を食べたり、収穫したりする中で、食べ物への興味が深まり苦手な野菜も食べられるようになったり、少しだけ口に運ぶ姿が見られるようになりました。

子どもたちが地域の人々に支えられながら成長していることを実感でき温かい交流の時間となりました。

今後も地域とともに子どもたちの育ちを支える活動を続けていきたいと考えています。

— 三世代交流お団子づくり —

1. 目的と経緯

目的…園児・保護者・祖父母世代と一緒に活動する機会を設け、日頃からつながりのある関係性を基盤に、世代を超えた温かな交流を深めるとともに、子どもたちが見守られながら育っていることを実感できる機会とする。

経緯…当園では、秋の十五夜に合わせた行事として、以前から毎年「三世代交流お団子づくり」を実施してきた。保護者や祖父母の方々が日常的に送迎や行事を通して園に関わってくださっていることから、世代間のつながりを生かした恒例行事として定着している。今年度も、祖母世代の得意分野であるお団子づくりを通し、家庭的で温かな交流が自然に生まれることをねらいとして実施した。

2. 内容

開催日時…令和7年11月5日水曜日 13時30分～

開催場所…さくら保育園 園内

【活動内容】

本行事は、年少・年中・年長のクラスごとに実施した。保護者が集まり次第、お団子の作り方や当日の流れについて説明を行い、説明が終わったクラスから順に調理を開始した。

活動では、お団子づくりに慣れている祖母の方々が上新粉を混ぜたり捏ねたりする工程を中心となって担い、子どもたちは教えてもらいながら一生懸命にお団子を丸める姿が見られた。成形後は調理室で茹でてもらい、茹で上がりまでの間、保護者と子どもたちは園庭で一緒に遊びながら待ち時間を過ごし、その後、出来上がったきなこ団子とあんこ入りのお団子をみんなで味わった。

大小さまざまな形のお団子を笑い合いながら食べる中で、終始和やかな雰囲気のもと、三世代の交流を深めることができた。

3. 成果と課題

【成果】

・祖母世代が中心となって活動を進めることで、家庭的で落ち着いた雰囲気の中、自然な三世代交流が生まれた。

・子どもたちは、祖母や保護者に見守られながら安心して活動に取り組み、自分で作ったお団子を嬉しそうに何度もお替りする姿が見られた。

・大きいものや小さいもの、不格好な形など、それぞれのお団子の違いを楽しみながら食べることで、会話や笑顔が広がった。

・保護者にとっても、園での子どもの友達関係や関わり方を身近に見る良い機会となった。

【課題】

・調理を伴う活動であるため、手洗い後になるべく他の物に触れないようにするなど、衛生管理をより一層徹底していく必要がある。



地域行事参加

～園の取り組み・園の方針を知ってもらう場～

◎まちづくり文化祭・東桂への参加

(展示部門)年長児・年中児 陶芸 年少児 季節の壁面

(発表部門)年長児 空手、歌の発表

1、 目的と経緯

- ・東桂地域にある施設の一つとして、園の取り組みや園の様子を地域に知らせる良い機会ととらえ、展示、発表を行う。
- ・東桂小学校の体育館での展示、発表は、初回から毎年参加しており、秋の行事の一つとしている。



2、 内容

- ・展示部門では、6月の年長・年中クラスの保育参観で親子製作した陶芸、壁面には年少児が季節の製作を一面に秋らしく飾りつけを行う。
- ・展示の際、どのような工程で子どもたちが製作したのかなどの説明書きも展示する。
- ・発表部門では、年長児が30年続いている空手の発表を行い、歌を披露する。

3、 成果と課題

- ・大勢の人前での発表に年長児は緊張するものの満足感達成感自信になるなど成長を促す糧となっている。
- ・空手や陶芸は園の伝統となっているので、卒園児、卒園児の保護者が懐かしむ姿が見られたり、地域の方々から大きな拍手や応援、励ましの言葉をいただいたりしている。
- ・文化祭の参加は見せることが主なので、地域、他施設などとの交流をする機会を多く作っていきたい。



本園の地域連携・地域交流

長生保育園

1. 目的

- ・地域交流は、この地域で長く親しまれてきた習慣、ふるまいを身に付けた年長の方々に園児が接することにより、自然な形で地域の文化を次の世代に引き継ぐ場となり、機会となることを目的としています。

2. 内容

① お団子作り

年長児が、都留市愛育会の皆様に粉をこねていただき、自分たちで丸め、給食室で蒸し、団子バラの木に飾りました。おやつにお団子を一緒にいただき、楽しく有意義な時間を過ごしました。

② ろうそく見学

子どもたちが、羽根子地区の工芸作家 藤本さんのお宅に年長児がご招待いただき、手作りのろうそくや絵を見学させていただいています。ろうそくの明かりが灯った幻想的なお部屋で、素敵な時間を過ごささせていただく貴重な機会。平成 12 年から毎年、年長児をご招待いただいています。



お団子づくりの様子



ろうそく見学の様子



3. 成果と課題

- ・愛育会の皆さまが教えてくださる様子をじっと見つめ、時には質問しながら、説明に真剣に耳を傾ける園児達。地域で長く親しまれてきた文化を地域の方々のご協力により次の世代に引き継ぐことができることをとてもありがたく思いました。
- ・地域の方を通じて触れる芸術の世界。園生活ではできない経験をさせていただいています。心が動く実体験を積み重ねられることを大変ありがたく感じています。
- ・当園の地域交流は、ご協力いただくことの方が多い現状ですが、認定こども園として、地域に貢献できるよう努力していきたいと考えております。
- ・新型コロナが流行し始めて以降、それまで大事にしてきた保育の中で決して譲れないのはどの部分なのか、安全に行うにはどうすれば良いのか、中止せざるを得ない活動の代わりに何を行うのか等、自分たちの保育を見つめなおすことを繰り返してきた分、継続する活動についても、その活動を行う意義がより明確になったと感じています。

手のぬくもりから伝わる笑顔

認定こども園 東陽保育園

《 高齢者とのふれあい ボランティア活動を通して 》

1 目的と経緯

現代の日本では、核家族世帯が増加し、高齢者とふれあう機会が減ってきている現状があります。以前に比べて、実家に帰省しないと会う機会がなく、おじいちゃんやおばあちゃんと離れて暮らす子どもたちも増えています。

ボランティア活動を通して施設訪問をする事で、地域の高齢者の方々とのふれあいを楽しみながら、人の育ちの土台となる『愛着形成』にも繋がる貴重な経験を大切に取り組んでいます。

2 内容

ボランティア活動では、12月に「ツクイ都留四日市場」に施設訪問をしました。

もうすぐクリスマスという事もあり、子どもたちがサンタクロースとトナカイになって歌やダンスを披露したり、おじいちゃんとおばあちゃんの側へ行き、手をつないで踊ったり触れ合いを楽しみました。

「昔ばなし」のお話が出てくる体操では、おじいちゃんおばあちゃんも知っている歌と一緒に口ずさみ、子どもたちの姿を眺めながら目を輝かせていました。

クリスマスの雰囲気味わいながら心が温かくなり、優しさと笑顔が溢れました。



3 成果と課題

ボランティア活動を通しての高齢者とのふれあいを楽しみに、「どんな事をしたら喜んでもらえるかな?」「クリスマスプレゼント喜んでくれるかな?」など、子どもたちもドキドキとワクワク感を持ってプレゼント作りや準備を進めながら、期待感を膨らませていました。

訪問先では、子どもたちを温かい拍手で迎えていただき、おじいちゃんおばあちゃんと手をつないだり、言葉を交わして目と目を合わせたりする時間と空間を楽しみ、子どもたちの姿に涙を流して喜ぶ方もいました。子どもたちの笑顔は、高齢者の方々にとって笑顔と安心感を与えてくれます。これからも『異世代交流』の場を通して、心のふれあいと笑顔を届ける機会を子どもたちと共に大切に作っていきたいと思います。

◎火災・災害の怖さを知って、防災意識を高めよう

～消防署立ち合いの避難訓練～

～保育所・小中学校合同引き渡し訓練～

1・目的

- ・いつ災害が起こっても起きてもおかしくない状況下の中で、子どもたちや保護者の皆様に防災意識を高めてもらう。
- ・保育所が災害時に警戒区域に建っている事から、非常時は小中学校に避難する事となります。安全かつ確実に保護者の皆様へお子様をお引渡しする為に訓練を行いました。



2・内容

地震火災が発生した想定で、避難訓練を行いました。その様子を消防署の方々に見て、たくさん褒めて頂き自信が付きました。その後、水消火器で火を消す練習をしました。消防車と救急車の中を見学し、実際に乗車をさせて頂きました。「これはなんですか？」と子ども達も興味深そうに質問し、貴重な体験が出来ました。「大きくなったら消防士さんになりたい」という子もあり、子ども達の心に残る一日となりました。

保育所・小中学校合同の引き渡し訓練は、あらかじめ【緊急引き渡しカード】を保護者の方々に記入して頂き、小中学校の兄弟を把握しました。実際に災害が起きた際に、事故・渋滞が起きないよう保育所と小中学校の職員で何度も話し合い、引き渡しルートの確認を行い、実施しました。

3・成果と課題

本やトミカで見ただけだった消防車や救急車を実際に見たり乗ったりする機会を持つ事が出来ました。消防士さんにもたくさん褒めて頂け、私たちが思っていたよりも、子ども達が違った角度から災害や火事、地震について考えるきっかけになりました。

本所では実際に災害が起きた時の為に「防災バック」を保護者に1つずつ用意して頂いています。子ども達が食べているお菓子や、心の拠り所になりそうな玩具などを入れています。毎月持ち帰りの着替えを季節にあった物に変え、賞味期限を確認する中で、保護者の皆さんが非常時の事を考える時間になればと思います。



小保連携の取り組み ～保育所から小学校への移行と育ちのつながり～

【目的と経緯】

- ・ 教育環境や学習指導のあり方について理解を深める。
- ・ 幼児期教育と小学校教育のつながりを円滑にし、それぞれの指導に生かす。
- ・ 課題を共有することで、保護者に対する指導のあり方や方法の一貫性を保つ。

数十年前より小学校見学、小学校 1.2 学年の生活科の授業の学習を通してはじまった小保連携の取り組み。現在は本園の「小学校につなぐ5歳児アプローチカリキュラム」を基に、継続的な活動を実施している。

【内容】

- ☆ 保育士の小学校授業参観
- ☆ 1 学年教師による体験授業（出前授業）
- ☆ 1 年生と年長児との交流会
- ☆ 1 年生、年長児保護者のアンケートによる情報交換
- ☆ 学校体験（もうすぐ1年生） など



【成果と課題】

- ・ 就学前園児が小学校の生活を身近に感じ、入学時の不安が軽減されるとともに、就学への期待感へとつながる。
- ・ 年下の子ともと交流することで、児童が思いやりの気持ちや自身の成長に気付く機会となる。
- ・ 小学校の保護者と就学前園児の保護者の情報共有により、安心して入学に向けた準備に取り組み、地域の子どもの成長を一緒に見守ることができる。
- ・ 小保連携の取り組みを今後も継続して行う事ができるように、相互の理解と協力体制の強化を図っていく必要がある。



買い物体験 ～地域の大型スーパーとの連携・交流～

1. 目的と経緯

- ・【対象園児：年長児】買い物体験をすることは、身近な生活に関わる社会の仕組みに触れる機会となる。品物を選び、お金を支払い、物を受け取るという一連の流れを経験することで、生活に必要な行動やルールへの理解を深める。また、何をかうのか考える。店の人や友だちとやりとりをする。順番を守る、約束を意識する。といった体験を通して、考える力・言葉で伝える力・社会性を育みます。さらに買い物を「楽しい経験」として味わうことで、身の回りの人や物への関心を高め、生活への主体的な関わりにつなげていくことを目的とする。

2. 内容

- ・きっかけは、年長児の「夕涼み会」に自分たちでカレーを作り食べたい。という意見が基となり、食材を自分たちで買い物に行こうと、みんなでカレー作りに必要な食材を話し合いその他に必要な食材、サラダ用の野菜、ドレッシング、飲み物、食後のアイスなど欲しい物を自分たちで考え、事前に「セルバ忍野店」へ買い出しに出かけました。その後もお散歩へ出かけながら、自分たちの食べたい「おやつ」の買い物を4回ほど体験し楽しみました。



3. 成果と課題

- ・実際の店舗での買い物体験を通して、子どもたちは園内での模擬体験（お店屋さんごっこ）では得られない現実的な緊張感や期待感をもって活動に参加していた。商品が並ぶ様子や店員とのやり取りを目の当たりにすることで、買い物が生活の中で行われている活動であることを実感する姿が見られた。欲しい物を自分たちで選び、代金を支払い、商品を受け取るという一連の流れを経験する中で、「これください」「おねがいます」「ありがとうございます」など、場に応じた言葉を使おうとする姿が多く見られ、コミュニケーション力の育ちが感じられた。また、公共の場であることを意識し、周囲に配慮しながら行動しようとする姿や友だちと順番を守りながら買い物をすすめようとする姿が見られ、社会性の育ちにつながった。
- ・今後は、実体験を通して得た学びを園でのごっこ遊びや日常生活につなげていくことで、より深い理解と定着を図っていきたいと思います。



地域の老人クラブの方々との触れあい

～焼き芋会・ゲートボール体験～

1. 目的と経緯

本保育所では、老人クラブの皆様と30年以上にわたり継続的な交流を実施しています。高齢者との関わりを通して、子どもたちが人を思いやる気持ちや社会性を育み、地域への親しみや感謝の気持ちを養うことを目的としています。その取り組みの一つとして、老人クラブの皆様を焼き芋会に招待し世代を超えた交流の機会としています。



2. 内容

地域との連携活動として、焼き芋会に老人クラブの皆様を招待し、焼き芋会に参加していただきました。炭の準備や火おこしなどをお手伝いしていただき、子どもたちは見守られながら安心して活動に参加することができました。また、焼き芋ができるまでの時間を活用し、近隣の施設・ゲートボール場へ移動し、ゲートボールのルールや道具の使い方を教えていただきながら、実際に体験をすることで交流を深めました。その後、保育所に戻り、焼き芋や給食と一緒に食べたり、子どもたちが歌の披露をしたりするなど和やかな雰囲気の中で交流を楽しみました。



3. 成果と課題

交流を通して、子どもたちは地域の方々への親しみを感じ、感謝の気持ちを持つとともに、人と関わる楽しさや思いやりの心を育む貴重な機会となりました。一方で、参加される高齢者の体調や状況に配慮し、無理のない活動内容や進め方を工夫していくこと、また、地域との連携を継続していくための情報共有が課題です。今後は、世代間交流への理解がさらに深まるよう交流内容の工夫しながら、地域に根差した無理のない交流活動として、継続と充実を図っていきたいと考えています。



世代間交流 ～地域のお年寄りとだんごづくり～

平野保育所

1. 目的と経緯

- ・今回で3回目となる、だんごばらづくりは、日本の、また地域の文化伝承を後世に伝えていくことはもちろん、地域のお年寄りとのふれあいにより、尊敬の念を持つようになっています。

2. 内容

- ・地域の長寿会の方々に来園いただき、「どんどやき」の由来を聞き、色紙をきれいに切る様子を見たり、米の粉をこねてもらってまるくしたり、交流を深めました。飾り用の大きな枝と、三つ又の枝も、園児全員のものを用意してくださり、保護者からも感謝の言葉が聞かれました。紅、白、緑、それにみかんを加えた四色の花を咲かせただんごばらを眺め、歓声をあげる子どもたちの姿が見られ、長寿会の方々も嬉しい様子でした。三つ又の枝にもだんごをつけ、夕方、保護者とともに、地域のどんど焼きに参加し、「焼いて食べると風邪をひかないよ。」「健康に一年過ごせるんだよ。」とお年寄りから教えてもらったお話を保護者に伝える姿が見られました。

3. 成果と課題

- ・これまでも年に3回ほど、長寿会の方との交流の場を設けていますが、子どもたちはいつも期待をもち、当日には楽しむことができます。感謝祭を設け、観劇を楽しみ、その後のふれあい体操やわらべうたあそびも、文化伝承を兼ねて、楽しむ時間としています。



本園の地域交流

山中湖村立山中保育所

ふれあい交流～山中湖中学校 3 年生と～

令和 7 年 12 月 11 日山中保育所において、山中湖中学校 3 年生生徒との「ふれあい交流会」が行われました。中学生の授業(家庭科)の一環として行われ、午前中の時間を使って保育所の子どもたちと中学生が楽しい時間を過ごしました。

1 目的と経緯

・中学生と園児の交流を行うことで、園児にとっては「家族や保育士以外とのふれあい」中学生にとっては「乳幼児と遊んで成長を知り、年齢にあった関わり方や遊びの計画・実践を行うことを体験する。」という目的で毎年行われています。



中学生手作りのゲームを楽しむ



懐かしい先生たちにも嬉しい時間でした

2 内容

・中学生が事前に学校で準備してきたおもちゃを使ったり、計画したゲームをそれぞれ子どもたちと楽しみました。
・自分たちの小さかった頃の話を保育士から聞いたり、保育所に残っている自分の展示物を見ながら懐かしがる姿も見られました。
・園児たちは中学生と一緒に走ったり、ままごとやおもちゃ作りなど、年齢に合った遊びを楽しみ、スキンシップも交えながら過ごしました。
・後日、「保育の仕事に興味があった。」「子どもの時に戻ったような楽しい時間だった。」など様々な感想とお礼の手紙が届き、各保育室前に展示し、保護者にも見ていただきました。

3 成果と課題

・園児たちは「様々な人に関わってもらい、かわいがられる」という気持ちを感じることで楽しさを覚えたり、安心感を持つことができました。
・保育士は卒園した子どもたちの成長を感じながら、「おかえり」の気持ちで迎えることで地域の子どもの継続して見守れる喜びがありました。
・普段、乳幼児と関わることの少ない中学生にとっては、幼児の気持ちを想像したり、コミュニケーションの取り方を考えて実践することで、授業で学ぶ発育や言葉の発達、基本的な生活習慣など、知識では理解しきれない部分も実感をもって理解できたと思います。
・このような機会が年間に数回あると、もっと深く関わることができると思いました。

年長さんをむかえる会

(小学校との連携)

1. 目的と経緯

・小学校はどんなところだろうと期待や不安を抱く就学前に交流することで、小学校はどういうところか・どんなことをするのかをすることで不安を減らし入学への期待を高める。

・小学校から招待していただき参加させていただいている。コロナ禍で交流できない年もあったが10年以上前から行われていて、子どもたちもとても楽しみにしている



2. 内容

- ・1年生から小学校の説明を聞く
- ・授業を体験し、1年生が傍で教えてくれる
- ・一人ひとりお手紙をもらう



3. 成果と課題

- ◆小学校入学への不安が減り、期待が高まったことで、就学までの生活や活動を意欲的に取り組めるようになった。
- ◆むかえる会以外にも交流はしているが、さらに子ども同士の交流や職員同士の交流を増やし、保育所から小学校への大切な架け橋期に育ちと学びがつながるよう連携を深めていきたい。

親子サッカー教室

1. 目的と経緯

- 地域のサッカークラブ（FC ふじざくら）と親子サッカー教室を通して交流する。
親子でサッカーに親しむ。サッカーボールに触れたり、親子で体を動かしたりすることを楽しむ。
- 園児がサッカーに興味をもって、自分から遊びたいと思うようになる。

2. 内容

FC ふじざくらの選手によるサッカー教室。

年中・長組の親子でサッカーに親しむ。（年中児 69 名・年長児 57 名）

2 日間でクラスごとに行い、時間は 1 クラス 30 分程度。

はじめは体慣らしから行い、徐々に足でボールの慣らし合いなどを行う。選手指導のもと、親子ペアになって一緒にボール遊びやサッカーの試合を楽しんだ。



3. 成果と課題

親子でサッカーに親しむ経験ができたことはとても良かった。子どもたちは、お父さん又はお母さんと一緒に、顔に喜びがあふれていた。サッカー教室を通して親子で普段あまりやらないこともできたと思う。保護者からも「楽しかった、子どもが嬉しそうだった、久しぶりに体を動かした、子どもが頑張っていた・・・」などの感想をいただいた。その後、園庭で保育士や友だちと一緒にサッカーを楽しむ姿も見られた。

今後、この交流を通し、FC ふじざくらのサッカー試合にも足を運んでもらえると地域活性にもつながるのではないかと思います。

本保育所の地域連携・地域交流

富士河口湖町立こもも保育所

散歩をとおして ～地域の人とのふれあい～

1. 目的と経緯

◎毎日のように天候の良い日には散歩に出掛けています。

- ・地域の人に声を掛けてもらうことで地域の人や自分が育った環境に親しみが持てます。
- ・体力がつき、食欲増進や睡眠の向上や気分転換にもなり体だけでなく心の健康にもつながります。
- ・自然に触れることで、五感が刺激されさまざまなことに興味を持つきっかけとなります。

2. 内容

- ・散歩に出掛ける際には、その都度、散歩計画書に人数・順路・持ち物を必ず記入して提出して出掛ける。
- ・人にあったら職員が積極的に挨拶をする。
- ・観光客に向けて撮影禁止のプレートを散歩車に表示をしたり職員自身にプレートをかけ撮影禁止を呼び掛けたりする。
- ・野生動物の出没情報の収集。

3. 成果と課題

散歩中に地域の方と挨拶を交わすことで自然に子どもたちからも挨拶するようになりました。また、熊の出没情報を地域の方に教えていただきました。

地域の方の声掛けや守られている安心感に地域の方の温かさを感じ、言葉の発達や心の発達の向上にも、つながったと感じます。

課題としては、観光客の増加、野生動物の出没等、安全への配慮が多くなってきています。



本保育所の地域連携・地域交流

富士河口湖町立小立保育所

小立小学校『こだちっ子まつり』参観

1. 目的と経緯

- ・小学生の活動の様子や校舎内を見学させていただくことにより、小学校の様子を知り不安な気持ちをなくし、入学に対する期待を高める。
- ・小学生との関わりを楽しむ。
- ・小学校の行事について知る。

2. 内容

- ・1年生出店 あきとあそぼう
- ・2年生出店 おもちゃワールドへようこそ
- ・3年生出店 支え愛 助け LOVE えがおの花を咲かせよう

上記の参観をさせていただく。1つのコーナーごとに小学生が説明をしてくれ、よく理解できないところは手伝ってもらって、楽しく遊ぶことができた。

3. 成果と課題

「こだちっ子まつり」を参観させていただき、ほとんどの事を自分たちで行っている小学生の活動の様子を見て保育所との違いを感じられたことと思う。また、楽しかった経験やお兄さんお姉さんに優しくしてもらった経験から、就学への期待もぐんと高まった様子である。校内を歩くことにより、学校の雰囲気を感じ、小学生気分も味わう事ができた。



地元農園でのとうもろこし狩り

1. 目的と経緯

大石保育所では、おおさわ園様に招待され、10年近くとうもろこし狩りを体験させていただいている。おおさわ園様で栽培されている『富士恵味』を収穫し、普段から食べているとうもろこしがどのようなになっているのか、土を踏む感触、形や香り、重さなどを実際に体験することで感覚が刺激され、地元で採れる作物への興味、農家さんへの感謝を持つことを目的としている。

2. 内容

おおさわ園様の畑に年少から年長までの園児が行き、まずは大沢さんから話を伺い、とうもろこしの種類や収穫の仕方などを丁寧に教えていただく。この日の朝、畑に野生動物が入り荒らされる被害があったことを聞いた子どもたちはとても驚いていた。収穫に入ると、どの子も大きいものを見つけようと必死になり自分より大きい背丈の葉をかき分け歩きづらさをもろともせず収穫を楽しむ。

3. 成果と課題

とうもろこしがどのようなになっているのか、収穫するには力があることや実の重さ、匂いなど実際に体験することで学びが得られた。大石地区は野菜や果物の栽培が盛んなので夏に保育所で育てている野菜以外にも興味を持ち、より豊かな食育に繋げていけるように日々の保育に様々な方法で積極的に作物と触れ合う機会を取り入れていく必要がある。



本所の地域交流

富士河口湖町立河口保育所

保小連携 河口小学校との交流会



1. 目的

就学を前に小学校・小学生を身近に感じることで、就学前の不安や心配事の軽減を図り、期待や楽しみを育む。また校舎や学びに関心を持ち小学校での生活を具体的にイメージが持てるようにする。

2. 内容

河口小学校1年生より招待を受け、年長児が参加する。小学校という場や、1年生の担任からの話などに緊張は見られた。1年生が用意してくれたお店で商品を買ったり遊んだりする。1年生の積極的な接客に安心して多くの商品を買って求めることができた。その後班ごとに別れ自己紹介やじゃんけんなどをして交流を深めた。数名の班ごとに別れることで緊張もほぐれたようだった。



3. 成果と課題

小学校に行く・学校の先生話を聞くことで程よい緊張感を持ちつつ、不安などの軽減ができ、期待や楽しみが増した。地域の子が保育所に通い、ほぼそのままのメンバーで就学するという小規模地区なのでやりやすくなっていると思う。内容のマナーはあると思うが、体験する子供たちが違うので年長児も来年（1年生になったら）こんなことをしたいという憧れや楽しみを見つけ、また今の保育所の生活の中においても年下児にしてあげたいという思いの芽生えも見られた。後半期にはこのような行事だけでなく、小学校に遊びに行く機会を増やせればと思う。



本園の地域連携・地域交流

富士河口湖町立 勝山保育所

地域の行事を学ぶ ～茅の輪くぐりに参加して～

1. 目的と経緯

- ・ 保育所がある勝山地区の富士御室浅間神社にて毎年、7月1日に開山式・夏越の大祓式（茅の輪くぐり）に招待を受け年長児が参加する。新型コロナウイルス感染予防をしている期間は自粛していたが、ここ数年前より行事が復活し子どもたちも参加するようになった。
- ・ 地域に知れ渡る伝統行事を理解し、受け継いでいくために貴重な体験をする。
- ・ 参加すると同時に地域の方たちとの交流を行う。

2. 内容

- ・ 「茅の輪くぐり」とは、神社に設置された茅（ちがや）で作られた大きな輪（茅の輪）を8の字に3回くぐることで、半年間の罪穢れ（つみけがれ）を祓い、残りの半年を健康に過ごすための厄払い・清めの儀式であり家内安全を祈願する神事。
- ・ 儀式に参加
- ・ 茅の輪くぐりに参加



3. 成果と課題

- ・ 子どもたちは神主さんや地域の方々の話に耳を傾け、儀式のやり方を真似して真剣に取り組み、行事の意味を理解しようとしていた。
- ・ 地域の行事に参加することの大切さを知り、年長児として立派に役目を果たすことができた。
- ・ 水分補給など熱中症対策をしたが、待ち時間が長かったので参加の時間を見直す必要がある。

地域の老人クラブの方たちとの世代間交流

『老人クラブの方たちとじゃがいも栽培』

1. 目的と経緯

- 地域の老人クラブの方々と種芋まきから収穫までの農園活動を通じて世代間交流を行う。
- 自分たちで種芋まきと収穫をした野菜を食べることで、食に関する意識を高める。
- 毎年恒例の行事であり、地域の老人クラブの方々と子どもたちが一緒に農園活動を行う中でお年寄りの方を身近に感じ、農作物について学べる場となっている。

2. 内容

【春】・老人クラブの方々に畑の耕作をしていただく。

- 園児が畑に間隔をあけながら、種芋を置いていく。

その際、老人クラブの方に置く間隔や種芋の切り口を下にして置くことを教えてもらう。

- 老人クラブの方に種芋と種芋の間に肥料をまいてもらい、その上に土を被せた。

- 1つの種芋からたくさんのじゃがいもが出来ることを教えていただき、収穫が楽しみになるような話をしていただいた。

【夏】・できるだけ日差しが暑くならないうちに畑へ行き、老人クラブの方々と一緒に芋ほりをする。

- 一人ずつ小さいバケツを持ってじゃがいもを拾い集め、バケツいっぱいになったら袋に入れる作業を繰り返す。今年は豊作であり、拾い終えるのも大変だった。



3. 成果と課題

- 栽培・収穫の喜びを味わい、食への興味・関心を持つことができた。給食の材料となり、自宅に持ち帰ったりしたことで家庭での話題にもなった。
- お年寄りとの関わりの中で声をかけられ、褒めてもらえたことで自信につながり、喜びや親しみを持てる良い機会となった。
- 掘ったり、拾ったりの作業に夢中になり、会話の時間が少なかったので一緒に休憩したり、質問する時間をもう少し持てると良かった。

富士豊茂小学校との交流 ～初めての招待～

1. 目的と経緯

- ・隣接する小学校との連携を深め、園児にとって就学への不安を小さくし、安心して小学校生活をスタートできるようにする。
- ・日頃より小学校のイベントに参加させていただいたり、校庭で遊ばせてもらったりする機会が多いので、園児が「迎える立場」として関わる経験も大切にしたいと考え、小学校1・2年生を招待し交流活動を企画した。

2. 内容

- ・園の行事「プレイランド」に招待し、一緒に参加してもらうことで、遊びを通じた交流を図る。
- ・1年間、様々なかかわりの中でお世話になった感謝の気持ちを伝えるとともに、年長児は来年度から小学校へ進学するにあたり、今後もよろしく願いしますという思いを込めたものとし、異年齢でのかかわりを通して、園児たちが安心して次のステップへ進めるようなものにする。



3. 成果と課題

- ・年間を通し、定期的に児童や教員との関わりをもつことで就学への不安が軽減され、更に今回、保育所に小学生を招待する中で、楽しい体験を共有し、校長先生をはじめ諸先生方とのコミュニケーションを図れた事で、身近な存在として小学校を感じられる様子が見られた。
- ・小学生から跳び箱をする様子やお礼としてピアノの演奏を披露してもらうことで刺激になり、1年生になることへの期待が高まった。
- ・年長児が在籍しない年度には、年中児以下でも参加できる活動内容や関わり方を検討していくことで、継続的な交流を図っていきたい。

